

# NEWS23 週刊報告     ダイジェスト版

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：1/4

## ・1/4(金)

新年最初の放送となる今回の NEWS23 では、レーダー照射問題、安倍総理年頭の記者会見と 2019 年の政局、ゴーン容疑者 8 日に出廷へ、米中貿易協議などについて取り上げられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の観点から検証を行いましたところ、安倍総理年頭の記者会見と 2019 年の政局については放送法第四条の観点からやや不十分な取り上げ方と言えるものでした。また、安倍総理年頭の記者会見と 2019 年の政局については検証者の所感を記しました。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください  
放送法遵守を求める視聴者の会

# NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2019年1月4日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：レーダー照射問題、安倍総理年頭の記者会見と 2019 年の政局 ゴーン容疑者 8 日に出廷へ、米中貿易協議		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レーダー照射問題</li> <li>・株式市場が波乱の幕開け</li> <li>・安倍総理年頭の記者会見と 2018 年の政局</li> <li>・東京オリンピックに向けて</li> <li>・熊本で震度 6 弱の地震から一夜明け</li> <li>・元日の原宿暴走男から新供述</li> <li>・ゴーン容疑者 8 日に出廷へ</li> <li>・スポーツ報道</li> <li>・23Today                     <ul style="list-style-type: none"> <li>レーダー照射問題</li> <li>株式市場が波乱の幕開け</li> <li>横浜市寿町の簡易宿泊所で火災</li> <li>米中貿易協議</li> <li>去年の交通事故死が過去最小</li> </ul> </li> <li>・天気予報</li> </ul>		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レーダー照射問題：結論→特に問題なし</li> </ul> <p>先月に起こった海上自衛隊の哨戒機が韓国海軍の駆逐艦から火器管制レーダーの照射を受けたとされる問題で韓国側が反論の動画を公開したとのこと、韓国が公開した動画で示した反論は①自衛隊機が高度 150 メートル、距離 500 メートルまで韓国軍の駆逐艦に近付いたとして威嚇的な低空飛行に当たる、②韓国側は日本側が基準として紹介した国際民間航空条約についても軍用機には適用しないことが明確に定められている、③火器管制レーダーは使っていない、④自衛隊機からの無線の呼びかけに応答がなかった点については通信内容ははっきりと聞こえなかった、という 4 つのポイントが取り上げられていて、特に④のポイントについては韓国側で録音したという雑音が入った無線通信の音声を開示したこともあわせて取り上げられていた。</p> <p>こうした韓国の主張に対して、自衛隊の情報収集活動に詳しい専門家で元海上自衛隊ヘリ操縦士の小原凡司(笹川平和財団)氏の「韓国海軍の艦艇ですとか警備救難監の上でどの様な作業が行われているのかと言ったことも勿論情報収集の対象になりますのでその情報が取れる距離、取れる硬度で飛行したということだと思います。」や、「威圧的だと感じたというのであれば、まずは海上自衛隊の航空機に対してあなたの目的はなんなのですか、ということを質問してしかるべき。」「日本側は軍用機ではなくて民間機にも適用される厳しい基準を使って、それ</p>		

よりも安全なところで飛んでいますよ、ということが言いたかったはず。軍隊に所属をする船ですとか航空機は戦闘行為あるいはそれに類するような任務を与えられた場合は民間航空機に適用される厳しい基準ではなく、更に近い距離、低い高度を飛ぶ可能性もあるということです。」という見解が紹介されていた。

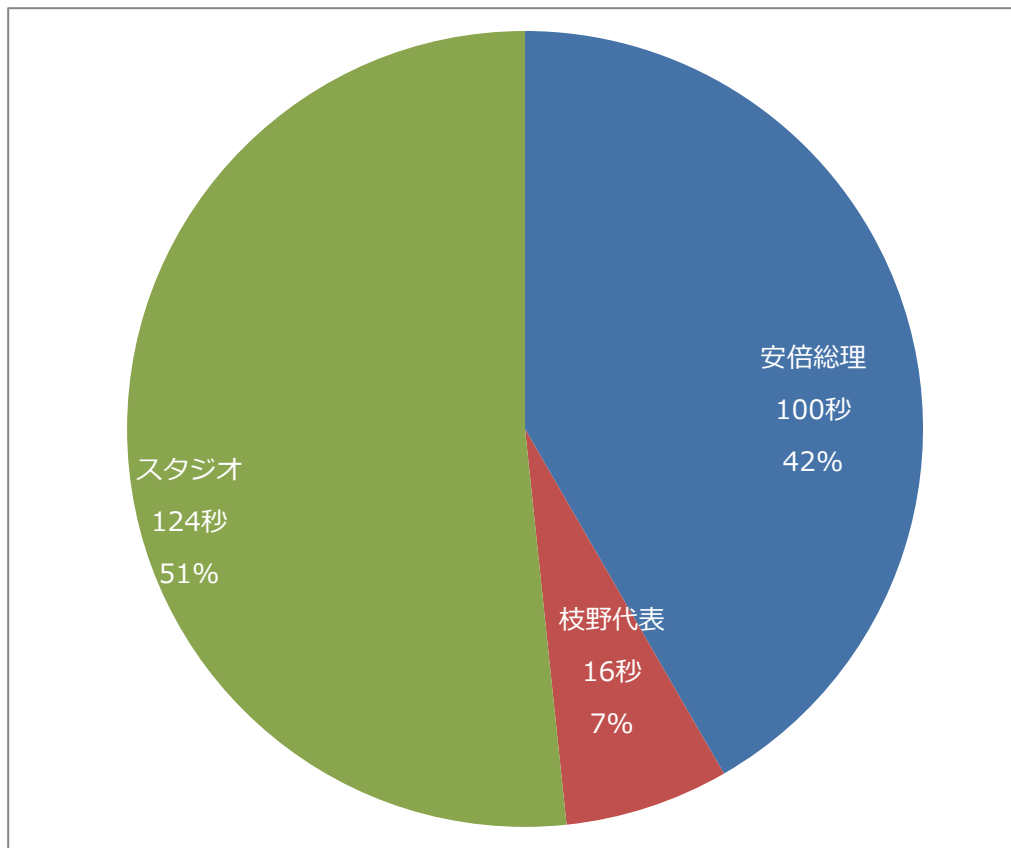
また、動画の公開後に韓国との外相会談を行った河野外務大臣の「しっかりと事実関係を踏まえ協議をしながら早くこの問題を解決するのが大事だということで、これはもうカン長官も私も認識は一緒でございます。」という記者会見での発言も取り上げられていた。

スタジオでは雨宮キャスターの「日本と韓国が双方が映像を公開したようですが、両方とも決定的な証拠とは言い切れずなんか水掛け論が続いていますよね。」というコメントに対して星キャスターが「そうですね、今日の韓国側の映像を見てもね、レーダー照射をしていなかったという証拠にはなっていないわけですよね。一方で、今日、あの外務大臣同士の電話協議もあって、まあ双方にこれ以上両国関係をこじらせたくないという気持ちもあるようなんですね、ですからまあ事実関係も調べていくんですけど、再発防止策をお互い考えていきましょうやという動きになっていくかもしれませんね。」と答えていた。

このトピックに当てられた時間は 344 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・安倍総理年頭の記者会見と 2019 年の政局：結論→やや不十分

安倍総理の年頭の記者会見と 2019 年の政局について取り上げられた。このトピックに当てられた時間は 240 秒で、安倍総理の年頭記者会見を取り上げた場面と、枝野代表の会見を取り上げた場面とスタジオでの場面に分けられた。時間配分の比率は以下の通りであった。



安倍総理の会見については以下に朱記した場面が VTR で取り上げられていた。

ナレ「毎年恒例、伊勢神宮を参拝した安倍総理、その後の記者会見ではいのしし年にちなんでこんな抱負を述べました。」

安倍総理「私も本年はイノシシのようなスピード感としなやかさを兼ね備えながら政権運営にあたってまいりたい、謙虚で、そして寛容な姿勢で政権運営を行っていききたいと思います。」

ナレ「そして、5月1日の新天皇の即位に伴い改められる新しい元号を4月1日に公表する方針を表明しました。」

安倍総理「新しい元号はこれまで、改元にあたって決定、公表をされてきましたが、今回は国民生活への影響を最小限に抑える観点から先立って4月1日に発表する考えです。」

ナレ「また今年夏の参議院選挙に合わせて安倍総理が衆議院を解散しダブル選挙を行うのではという見方も出ていることについては。」

安倍総理「そういう声の一部にあるということは承知をしておりますが、私自身の頭には片隅にもないものであります。」

枝野代表の会見については以下に朱記した場面が取り上げられていた。

ナレ「野党からは警戒する声も。」

枝野幸男（立憲民主党）「解散権を持っていらっしゃるの、内閣でありますし、その内閣の長たる内閣総理大臣が常識的な判断をされない方だというのは分かっておりますので、いつあるかはわからないというつもりでいます。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りで亥年の政局というジंकスについて解説されていた。

皆川玲奈「亥年の選挙というのは4年に一度春に行われる統一地方選、そして3年に一度夏に行われる参院選、これが12年の周期で重なることを言うんですね。この選挙が重なることで与党が苦戦するとも言われています、では過去の選挙を見ても今から12年前2007年の参院選では自民党が大きく議席を民主党の第一党に明け渡しまして、さらにその12年前は1995年の参院選でも当時の自民党と社会党は苦戦をしているわけですが今回はどうなるのでしょうか。」

星浩「あの、春のね、統一地方選挙がありますと、まあ保守系の議員を中心に地方議員がね、もう一休みということになっちゃいますので、夏の参議院選挙に力が入らないというので、まあ自民党が苦戦をするというジंकスがあって、私も何度も取材をしてきたんですが、意外と信憑性があるんですね、加えて今回は6年前に自民党が圧勝してますのでね、これ以上伸びる余地があんまりないんですね、それからですね6年前は共産党がほとんどの選挙区で共産党が候補者を立てたんですけども今回はどうも野党統一候補に乗りそうだということもあって、自民党にとってはちょっと不利な材料が多いんですね、焦点は45の選挙区のうち32が一人区なんですね、そこで与野党が激突しますので、その勝敗が全体の攻防を分ける、ということだと思いますね。」

今回はトピックの取り上げ方が安倍総理の年頭の記者会見と2019年の政局ということで、VTRでも野党第一党の枝野代表の取り上げ方に比べて安倍総理の方を重点的に取り上げている格好になるのはやや仕方のないところはあるが、安倍総理の会見の中で衆議院の解散についてという問題の他にも新元号発表という問題も安倍総理と枝野代表では見解が分かれる可能性があると考えられるが、安倍総理と枝野代表の見解が対比されたのは解散総選挙の可能性のみで、新元号について枝野代表の見解は取り上げられなかった。

与党が会見とそれをうけての野党の会見を対置して取り上げるのであれば、与党側の会見で示されたポイント

について、それと対応する野党側の主張も取り上げ、どの論点では与野党で見解が一致していて、どの論点で野党の見解が分かれているのか、ということを示す必要があるのではなかろうか。また、そうした見解の一致不一致を示さなければ放送法第四条一項四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」でポイントとなる「意見が対立している問題」とはいかなる問題であるのか、ということも視聴者に伝わらないのでないだろうか。

今回のような取り上げ方は、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」や同四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点からはやや不十分なものであったと言える。

・ ゴーン容疑者 8 日に出廷へ：結論→特に問題なし

特別背任の疑いで再逮捕された日産自動車の前会長カルロス・ゴーン容疑者について、勾留の理由を明らかにする手続きが 8 日に東京地裁で行われることになりゴーン容疑者も出廷すると見られていることが報じられると共に、法定では容疑者本人も意見を述べるができるためゴーン容疑者がどんな主張をするか注目されているとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 30 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・ 米中貿易協議：結論→特に問題なし

米中の貿易摩擦緩和に向け、双方の次官級による協議が今月 7 日と 8 日に中国で行われることになったとのこと、先月の首脳会談では 3 月 1 日までという交渉期限を決めアメリカ側が追加関税の引き上げ凍結に応じていたが、今回の予定されている協議はそれ以来はじめての直接協議となるとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 24 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・ 安倍総理年頭の記者会見と 2019 年の政局

放送法第四条一項四号には「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」とあるが、それ以前の話として与野党間、特に与党と野党第一党の間でどういう問題では意見が対立していて、どういう問題では意見が対立していないのかということを取り上げる必要があるのではないだろうか。とりわけ、どういう問題では見解が一致しているのか、という点についても取り上げずに、与野党の見解の相違ばかりを取り上げるような報道についてはそれ自体が直ちに印象操作であるとまでは言えないものの、そうした報道が続くようであれば、実際には多くの法案が野党第一党も賛成した上で可決しているという実態に反して、「野党は反対してばかり」という印象を視聴者が抱いてしまう、あるいはそうした印象を助長・教化してしまう恐れがあると言えるだろう。

また、スタジオでは亥年は春の統一地方選挙と夏の参議院選挙が重なり地方議員が自分の選挙で疲れてしまうため、政権与党が苦戦するということが語られていたが、そのジクスの裏付けとして挙げられた過去の例は

## NEWS23 週刊報告 詳細版

2007年と1995年のものであり、どちらも選挙制度改革以後、すなわち小選挙区制導入後の話であった。

ところが、国政においては小選挙区制（一人区）の選挙がメインに据えられているが、地方議員の選挙においては複数の定数と単記制投票という中選挙区制的な選挙制度が中心である。

かつての中選挙区制においても亥年の選挙というジnkスは妥当していたのか、それともジnkスとはいうもののこうした国政と地方政治における選挙制度のねじれに起因する比較的新しいジnkスなのか、という点についても突っ込んだ解説がなかったのはやや物足りなかった。